

けもの新聞

The Wildlife Times



喜多方市鳥獣被害対策実施隊が
お送りする野生鳥獣に関する情報紙です。

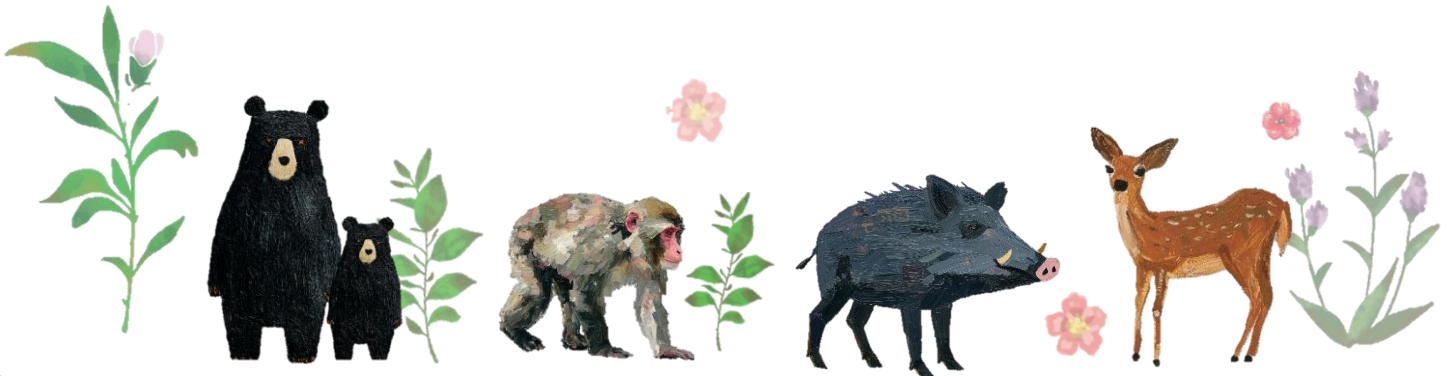
発行にあたり

令

和7年度は、全国的なツキノワグマの大量出没が社会的な問題となりました。市内でも多くの出没情報があり、山都町では3件4人の人的被害が発生しました。新聞報道などでは繰り返し「異常事態」を伝え、皆さんの日常生活に大きな影響を及ぼしました。

これまで野生鳥獣による被害と言えば、基本的に中山間部での農作物被害が主であり、山間部に住んでいない方々にとっては、あまり馴染みのないものであったと思います。しかし、クマを含めた野生鳥獣の活動域の拡大は、山間部のみならず、市全体・市民一人一人の生活に影響が開始しています。

これを受け、喜多方市鳥獣被害対策実施隊では、クマやイノシシなどの野生鳥獣に関する基本的な知識や対策などについて、少しでも興味を持ってもらい、「人間と野生鳥獣の共存」を考えるきっかけになれば、と「けもの新聞」を発行することとしました。



問い合わせ：喜多方市鳥獣被害対策実施隊（市民生活課有害鳥獣対策室） ☎（24）5261



冬眠明けのクマに**注意**

昨年の大量出没の状況から、今年も早い時期から人里周辺で活動を開始することが予想されます。昨年度出没のあった場所などでは、特に注意が必要です。

- ☑ 今までクマが出没したことがある場所には近づかない
- ☑ クマ鈴、ラジオなどの大きな音が出るものを身につける
- ☑ 天気が悪い日は、視界がきかないので注意する
- ☑ 子グマを見かけたら、静かに立ち去る
- ☑ クマのフンや足跡を見つけたら、引き返す
- ☑ やぶや林など周囲が見渡せない場所には不用意に立ち入らない
- ☑ 生ごみを捨てたり、農作物の残^まきは、集落への誘引物になるので放置しない

野生鳥獣が増えた要因とは??



いろんな要因があるんだね…

昨年はツキノワグマの出没が大きな問題となりましたが、野生鳥獣に関する問題は、クマだけではありません。特にイノシシとニホンジカについては、全国的に生息域を拡大させており、大きな問題となっています。環境省の行った分布調査では、1978年から2018年までの40年間で、ニホンジカの分布域は約2.7倍、イノシシの分布域は約1.9倍に拡大していることが示されています。全国的に捕獲圧を強化し、生息数は2014年頃をピークに減少傾向にはありますが、2019年時点で、ニホンジカは

約190万頭、イノシシは80万頭生息していると推定されています。野生鳥獣の生息域・生息数がここまで拡大してしまった要因として上げられることはたくさんありますが、一つ言えることは、環境の変化とともに、長い長い時間をかけて現在に至っているということですが、本市においても、野生鳥獣の生息域・生息数の拡大は喫緊の課題ですが、一朝一夕で解決できると思わず、長い時間をかけて、しっかりとした考えのもと対応しなければならぬ極めて根の深い問題であると考えています。

野生鳥獣の生息域の拡大

